

米国の継承日本語教育学校紹介

連絡先		
学校名（またはプログラム名）ウェブサイト	学校所在地（例 カリフォルニア州ロサンゼルス）	連絡担当者のお名前とメールアドレス
San Fernando Valley Japanese Language Institute サンフェルナンドバレー日本語学園 ウェブサイト www.sfvjli.com	カリフォルニア州ロサンゼルス	村田典子 (Noriko Murata) sfvjli@hotmail.com

学校について	
学校（あるいはプログラム）の設立の年と設立の背景	1924 年、日系の子弟への語学と文化の継承のために設立。現在は日系に関わらず 4 歳から大人までのあらゆるバックグラウンドの学習者が在籍。
教育目的とゴール	• 芸術、伝統行事などを通して日本文化を学ぶ。 • 日本語・日本文化を学ぶことに、より良い市民としてコミュニティーに貢献できる人材を育成する。 • 生徒が日本語を学び続けることができるよう、楽しく学習しつつ将来を見据えたサポートをする。
学校運営資金、資金の支援組織・団体（もしあれば）	授業料とファンドレージング
学校の組織（例 理事会、父母の会、教師会など）	主に父兄で構成される理事会が運営
学校施設（例 公立の高校の施設を有料で借りている、コミュニティーセンターを無料で使用）	独自の教室施設を所有。ホールやキッチンなどの学校行事で使われるその他の施設は、隣接のコミュニティーセンター所有の施設を無料*で借用。 （*施設使用のためのメンバーシップ料金が入園時の登録料に含まれている。）

家庭数
70

子どもの言語背景			
日本語だけを話す	日本語と英語（または他の言語）を話す、日本語の方が多い:	日本語と英語（または他の言語）を話す、英語（または他の言語）の方が多い	英語（または他の言語）だけを話す。(家庭では日本語は使われていない)
0 %	約 12%	約 44 %	約 44 %

授業数		
授業のある曜日	授業時間（一日の総時間）	授業のコマ数 (例 1 時間目：8:45-9:30)
土曜日のみ	4 時間	1 時間目：8:30 – 9:20 2 時間目：9:30 – 10:20 3 時間目：10:20 – 11:20 4 時間目：11:30 – 12:30
授業内容について特記することがある場合、ここにご記入ください。 大人の会話クラスは 2 時間のみ、10 回で完結するコースを年に 2 回提供		

日本語のコースについて		
コースの種類 (記入例 継承語（日本語を家庭で話す児童のための）コース、親は日本語母語話者であるが日本語を話さない子どものためのコース、外国語としての日本語のコースなど)	レベル (記入例 幼児部)	各レベルの学習者数（過去 3 年の平均） (記入例 15 名)
入門クラス 日本語を家庭で話さない生徒のためのクラス。クラスに何人か日本語を聞くことに慣れている生徒もいるが、日本語学習 1 年目または 2 年目の 4 歳児から 6 歳児。学校生活に慣れること、日本語を使って楽しく遊んだり歌ったりすることが中心。	幼児部	12 人
Japanese 1A 日本語を家庭で話さない生徒のためのクラス。クラスに何人か日本語を聞くことに慣れている生徒もいるが、日本語学習 2 年目の 5 歳児から 7 歳児。	小学生低学年 1	12 人

Japanese 1B 日本語を家庭で話さない生徒のためのクラス。クラスに何人か日本語を聞くことに慣れている生徒もいるが、日本語学習 3 年目以上で 7 歳児から 10 歳くらいが中心。	小学生低学年 2	6-7 人
Japanese 2 日本語を家庭で話さない生徒のためのクラス。クラスに何人か日本語を聞くことに慣れている生徒もいるが、日本語学習 4-5 年目以上で 10 歳から 12 歳くらい。	小学生中学年中心	6-7 人
Japanese Chukyu 家庭で日本語を話す生徒とそうでない生徒が混在するクラス。ほとんどの生徒が幼児部時代から続けて通っている。	小学生高学年及び中学生	10 人
ティーンアダルト 1 家庭で日本語を話さない生徒のための初心者クラス	中高生中心	10-12 人*
ティーンアダルト 2 家庭で日本語を話さない生徒のための初心者クラス 2 年目、3 年目	中高生	10-12 人
ティーンアダルト 3 家庭内で日本語を話す機会のある生徒が主流	中高生	10-12 人
日本語初心者に対する会話中心のクラス。文字は積極的には取り入れていない。1 日 2 時間のみ、10 回のコースが年に 2 回もたれている。	高校生、大人	6-7 人

*2014-2015 年度は人数が多かったために 10 人のクラスを 2 クラス開設

教師				
教師数	給料が支払われる TA (アシスタント) 数	ボランティアの TA 数	教師のバックグラウンド (記入例 日本の幼稚園免許保持者 XX 名、アメリカの教員免許保持者 XX 名、など)	教師研修の有無 (記入例 学校独自のもの: 年 2 回 継承語学校対象のもの: 年 1 回 地域の日本語教育一般のもの: 年 1 回)
10 人	0 人	3 人	日本の幼稚園の教員免許保持者 1 名、 日本の中高教員	所属する加州日本語学園協会主催の勉強会: 年 1 回 学校独自のものは定期的

			免許保持者 3 名 外国語教育関連 MA 保持者 4 名 アメリカの中高 教育免許保持者 1 名、	には行っていない。必要 のあるもの、興味のある テーマなどがある場合 に、必要に応じて集ま る。
教師に関して追加情報がある場合、ここにご記入ください。 上記の資格及び学位の保持者は重複している部分があります。				

教材（上記各レベルで使用する教材。教科書があればタイトルと出版社名を記入してください。自作教材を使用の場合、内容を説明してください）	
レベル	教材
入門クラス	加州日本語学園協会「やさしい日本語 入門編」
Japanese 1A	自主作成教材 「やさしい日本語入門編」の語彙を使用し、フレーズで基本的な会話ができるように作成された教材。
Japanese 1B	講談社 Japanese for Young People I
Japanese 2	講談社 Japanese for Young People I
Japanese Chukyu	講談社 Japanese for Young People III
Teen/Adult 1 & 2	ジャパントイムス「げんき I」
Teen/Adult 3	自主作成教材 トピックごとに学習内容を設定し、プロジェクトなどを多く取り込んだ教材。
Adult Conversation	自主作成教材 学習者が日本に行ったときに役立つであろう場面を設定した基本的な会話を学習。

教育機器・テクノロジー（学校で使用している機器やテクノロジーを記入してください） - プロジェクター（3 台を学校で保有しシェア、2 台は個人もち） - DVD プレーヤー - インターネット

評価方法（どのように学習者の学習到達度を測っているか）
年 2 回の期末テストの結果に普段の授業への参加、授業での成果、宿題の内容などを加味し、総合的に評価する。

現地の学校との連携の有無（例 日本語クレジットテストを実施し、パスすると現地の高校の外国語のクレジットがもらえる）
加盟する加州日本語学園協会主催のクレジットテスト及び 2 回の校内での期末テストの成績と年間の出席時間を満たしたことを証明する書面を提出することにより、高校の外国語、イレク

ティブなどの単位が取得できる*。

*あらかじめ所属高校の承認が必要。どのような単位になるかは高校の判断にゆだねられている。

日本文化を教えるための行事や活動（年間を通してどのようなことをしているか）

入園式、学習発表会（学芸会のようなもの）、敬老ホーム訪問、料理教室、お餅つき、豆まき、ひな祭り、ミニ運動会、隔年で音読のコンテスト/スピーチコンテスト

その他（上記項目以外の追加情報があれば記入してください）